



セパタクローの歴史

1965年、 東南アジア競技大会に採用

マレー半島に伝わっていたボールを地面に落とさないように数人で蹴り合う「セパラガ」、また空中につるした籠の中にボールを蹴りいれ、蹴り方の難易度で得点を競い合うタイの「ジャンクイタクロー」などがその原型とされています。

1965年、東南アジア競技大会（現：SEA Games）の競技に採用されるにあたり、アジアセパタクロー連盟が設立され、同時に統一ルールが定められました。それまで、国や地域によって様々なルールが統一されたことにより、今日の「セパタクロー」と呼ばれる競技が正式に誕生したのです。

1988年には、国際セパタクロー連盟が設立され、現在ではアジアに限らず、アメリカ、オセアニア、ヨーロッパ大陸と、世界各国で広く普及しています。特にアジア大会においては、1990年の第11回大会（北京）から正式競技になるなど国際的にも認知され、着実に普及してきています。

協力：日本セパタクロー協会

(了)

